

週間火山概況（平成 22 年 5 月 21 日 ～ 平成 22 年 5 月 27 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒すべき事柄）に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（5 月 21 日～5 月 27 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概 要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 5 月 27 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、霧島山（新燃岳）、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、秋田駒ケ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（5 月 27 日現在）

この資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）にも掲載しています。

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

みやけじま

三宅島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

噴煙高度は火口縁上100～300mで推移した。

火山性地震はやや多い状態で推移した。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

いおうとう

硫黄島【火口周辺警報（火口周辺危険）】

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。

国土地理院の観測によると、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、現在はほぼ停滞している。島内南北方向の伸びの傾向はやや鈍化している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくあかのば

福岡ノ場【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

今期間、観測は行われなかった。海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

きりしまやま

しんもろだけ

霧島山（新燃岳）【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

27日15時36分^{*)}に小規模な噴火が発生した。遠望カメラでは、灰白色の噴煙が火口縁上100mまで上がり雲に入った。この噴火により新燃岳周辺の一部で降灰を観測した。気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力により実施した上空からの観測では、火口西側付近には大きな噴石や降灰は確認できなかった。噴火に伴い火山性地震や火山性微動を観測した。

新燃岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があるため、

火口から概ね1kmの範囲では、大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき²⁾）にも注意が必要である。



図1 霧島山（新燃岳）火口内の状況（2010年5月27日15時36分^{*)}）
火口カメラ（新燃岳火口南縁）では、火口内で灰白色の噴煙が上がっているのを観測した。

*) 精査の結果、噴火の時間を15時37分から15時36分に訂正する。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。
- 2) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

さくらじま

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、21日に爆発的噴火が1回発生し、大きな噴石¹⁾が4合目（昭和火口から800～1,300m）まで達した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

火山性地震は少ない状態で経過している。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、^{あいら}始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による変化が引き続き観測されており、2010年初め頃から、桜島島内においても伸びが観測されている。

昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、大きな噴石¹⁾及び火砕流に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき²⁾）にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

さつまあいらじま

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いている。

硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

すれのせじま

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

^{あたけ}御岳火口では、今期間噴火は確認されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

あづまやま

吾妻山 [噴火予報（噴火警戒レベル1：平常）]

27日07時38分に継続時間約40秒の火山性微動を観測した（火山性微動を観測したのは2010年5月4日以来）。火山性微動の発生に際し、地震回数やその他のデータに特段の変化は認められなかった。

噴気活動はやや高まった状態が続いており、火山性地震はやや多い状況が続いている。

吾妻山では火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、火口内では噴気、火山ガスの噴出等がみられるため警戒が必要である。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山	
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）	
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒 または山麓厳重警戒	
レベル4（避難準備）		入山危険	
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	火口周辺危険	
レベル2（火口周辺規制）		平常	
レベル1（平常）	噴火予報		

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。